

「英語についての雑談」

今月も少し、似たような意味の動詞での違いを書いてみることにします。web で入手した情報を転載している内容も含まれます。

「貸す」、「借りる」などの LEND, RENT, BORROW, LEASE, と LOAN

lend は不規則動詞で過去形も過去分詞も lent です。ここがまず、rent とまぎらわしいところですね。意味は「貸す」です。お金を代償とする条件はつきません。貸すものはお金でも、物でも可能です。慣用句で lend a ear (耳を貸す、耳をすます)、lend a hand (手伝う)などがあり便利な単語です。

「耳を貸す」という表現は自分の耳をちぎりとして貸すわけではないのですが、同じ比喩的な表現が英語にも日本語にもあっておもしろいですね。

rent は定期的に「貸す」「借りる」両方の意味に使いますが、お金を代償にという条件が付きまします。つまり、賃貸し、賃借りというわけです。rent は規則動詞なので、過去形、過去分詞形は共に rented です。名詞形は家賃、レンタル料、などの意味があり、pay a rent のように使います。イギリス英語では、let が土地・家・部屋の賃貸しとして使用されます。

borrow は、お金を伴わずに借りる場合に使用されます。持ち主の許可を得て、しばらく場所の移動を伴って自分のところで使う時に用いられるので、日本語の「借りる」と用法が少しずれています。日本語で「お手洗いを貸してください」と言いますが、英語では"May I borrow your bathroom?"といたら相手がびっくりすると、よく会話の本で説明があるとおりです。英語ではトイレは相手の許可を得て使うのではなく、トイレはどこですか"Where is the bathroom?" ということの方が多ようです。どうしても、借りると言いたければ use を使い"May I use the bathroom?"といます。また、手放す事の出来ない抽象的なものに対しても用いる事があり、borrow a phrase 「言葉を借りる」、borrow ideas 「アイデアを借りる」でも使用します。

lease は、「賃貸する」ことで、正式な契約を結んで有料で物や建物・土地などを貸すことを意味します。建物や土地以外にも、高額な機械や設備・装置などを長期間借りる場合にも使います。アメリカで住宅やアパートメントの長期（1年以上）の賃貸契約を行なう場合には、lease agreement と言いますが、月単位などのアパートメントの賃貸の場合は、rental agreement と言ったりします。なんとなく lease と rent のニュアンスの違いが分かるでしょうか？

loan は、利子をとってお金を貸すことを意味し、銀行からの住宅ローンや企業の融資などの場合に使用します。アメリカで住宅などを購入する場合には、mortgage loan との名称で、土地や住宅を抵当にする（mortgage）融資を明示した表現を使います。日本の住宅ローンも抵当権が設定されるので、住宅ローンは mortgage loan と訳するのが正しいですね。

「要求する」、「依頼する」などの CLAIM, DEMAND, REQUIRE, REQUEST, ASK FOR, と BEG

claim は、(当然のこととして) 要求(請求)する、求める などの意味で一定の権利に基いて要求する場合に使用され、claim の後には、compensation (補償金)、damages (損害賠償)、benefit (給付金)などの金銭的な補償を表わす単語が良く使われます。claim the right などの様に「権利を要求(主張)する」などでも使われます。

demand は、(強く) 求める、要求する場合に使用され、強い態度で望む依頼や要求で強硬な感じの要求になります。要求するものとしては、attention (注意)、money (金)、resignation (解雇)、release (解放、釈放)などで、当然の権利として断固たる要求の意味合いになります。

require は、(必要なので) 要求する、命じる、要請する場合で権利や職権によって公的に要求するニュアンスとなります。

request は、(正式にまたは丁寧に) 依頼する、要請する場合で、すこし形式ばった意味の改まったところにより丁寧に依頼や要請する感じです。

ask for は、求める、頼む感じの要求となり、一般的な「依頼する」という意味で広く使われ、他人の援助・忠告・情報などを「求める、要求する」という意味で一般的な要求する表現となります。

beg は、少しニュアンスが異なりますが請い求める、頼む、懇願するなどの意味で I beg a favor of you. 「あなたにお願いがあります。」とか、相手の言った事が聞き取れなかった時や、相手が何か変な事を言った時に嫌味を込めて I beg your pardon. 「なんて言ったの！」などで使ったりします。

次は、少し話題を変えて、英語の略記についていくつか書いてみます。通常の英文ではあまり略記は使用しないと思いますが、論文や手紙、または、インターネットのメールやチャットなどで使用される英語略記について、

まずは、ラテン語の表現からの略記として

i.e.: id est の略で “that is” の意味となり「すなわち」、「言い換えれば」として使います。

e.g.: exempli gratia の略で “for example” や “for instance” の意味となり「例えば」、「例をあげると」など。

フランス語の略記となりますが、英語でも招待状などで良く使われるものとして

R.S.V.P.: Répondez s'il vous plait で “Response, please.” の意味の「ご返事お願いします。」

手紙などで「追伸」を意味する P.S. は、post script の略記となります。

vs. は、versus の略記で A 対 B などの場合に A vs. B と記載します。省略形には、英語ではピリオドをつけるのがルールですので、A vs B は誤った記載になります。

次の例の略記では、ピリオドをつけずに記載するのが一般的な様です。

aka: also known as の略で「の別名で知られる」、「別命」、「別称」、「またの名を」など。

asap: as soon as possible の略で「できるだけ早くに」

IMO: in my opinion の略で「私見によれば」

IMHO: in my humble opinion の略で「私の控え目な（つつましい、つまらない）意見では」

英語の話題として、面白そうな内容で何があるか思い出した時にメモを取って、毎月そのメモからいくつかの話題を拾って文章として書いていますので体系的な文章になっていないのですが、もう 10 年以上も英語での生活から遠ざかっていて、記憶が薄れてきていて面白い失敗談などのネタも尽きてきそうです。これからは毎月、前回と今回の動詞の類義語 (synonyms) の話題や、固い話題となってしまうそうですが、英語の文法的な気になることを書いてみようかと思っています。どうなるか予測出来ていませんが。

それではまた。